

日本技術士会神奈川県支部 第125回CPD講座 報告書 HP用

開催日	2023年9月23日(土)
開催時間	13:30～16:50
名称	エネルギーを考える(2) ～次世代バイオ燃料製造技術とメタンバイオガスプラント～
主 催	公益社団法人日本技術士会神奈川県支部
開催場所	シルクセンター B1 階 大会議 および Web 中継
行 事 内 容	講演会
参加人数	66名(会場17名+Web 49名)

内容

I 講演概要

【講演1】次世代バイオ燃料製造技術の現状と今後の展望

講師：国立研究開発法人 産業技術総合研究所イノベーション人材部・シニアマネージャ
坂西 欣也 氏（博士（工学））

運輸部門で利用されているバイオエタノールとバイオディーゼル燃料を中心に、非食用バイオマスから製造される次世代バイオ燃料の現在の導入状況や技術開発動向を概説すると共に、現在注目されているSAF(Sustainable Aviation Fuel)製造のための新規技術が紹介され、船舶用燃料を含めて液体燃料のカーボンニュートラル化実現に向けたバイオ燃料の利用拡大のための今後の展望が述べられた。

【講演2】メタンバイオガスプラントの関する今後の展望について

講師：北海道大学大学院工学研究院バイオマスコミュニティプランニング分野 特任助教
落合 知 氏（博士（工学））

近年、地球温暖化防止の観点から化石燃料依存の生活からの脱却が、世界中で叫ばれている。我が国においても、2030 年までに温室効果ガス排出量を 46%削減(2013 年度比)、2050 年にはネットゼロを目標と掲げている。達成のためには、生産活動や生活でこれまで使ってきた化石燃料由来エネルギーから再生可能エネルギーへの転換が必要であり、その技術設備の一つとしてメタン発酵(嫌気発酵)現象を利用した「バイオガスプラント」が注目されている。バイオガスプラント運用には、バイオマスを「集め」「処理」「利用」「残渣処理」という、上流から下流までのモノの流れを考える必要があり、継続的な運用には多くのステークホルダーとの合意が必要となる。将来、さらなる多様な価値観の中での運用が求められるメタンバイオガスプラントについて、技術面だけではなく合意形成などの社会的側面からも議論を進めたいと講師は考えている。



講演 1 坂西 欣也 氏

講演 2 落合 知 氏

会場風景